

覆氷盆に戻る

はじめに

先の阪神淡路大震災で水の供給が完全に中断されました。そのため、あらこらで水の音があがるなか何もしずにはた自然に見ているだけで、しかも生きていくのに必要な飲用水も確保するのに困難を極めました。

目の前には大量の海水があるのに、それを全く利用できない悔しさから、新しい水確保の方法を考えました。



各地からあつてくるの道筋車が駆けつけただが標心の「水」がなく、道が焼け落ちていくのを見た自然と眺めているしかありませんでした。あらためて「水」の重要性を思い知らされた気配でした。



1

水源地の水とダムの水がともに約55%で第1位になっています。その次が産廃水で約22%。そして湖や沼などの水は1、27%とつづいています。つまり水道水のはほとんどが河の水なのです。東京では利根川や多摩川の水、大阪府では淀川の水も水道水として使っています。



この写真は、ゴムンダマンが明け方の露を俵に受け、水分をとっている様子です。

和道はこの砂漠に住むゴムンダマンの写真を発見し、その根拠は水を集めている事に驚きました。このように水を集められないかと考えていたたこめ、子供が海苔に傘で遊んでいるのを見て、傘の作品を思い浮かべました。

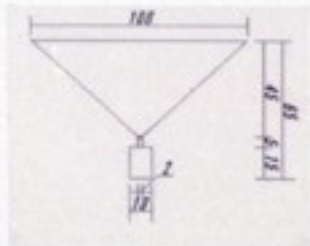
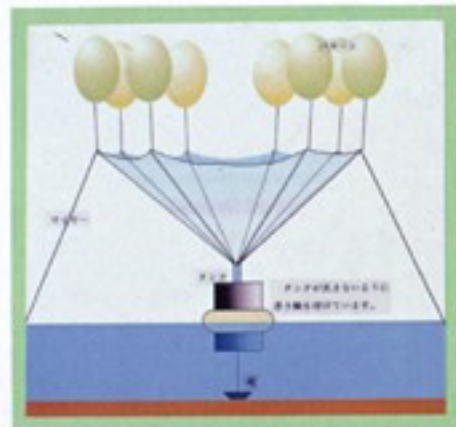
覆氷盆に戻る

2

傘の上部には黄つものバルーンがあり、傘の形を維持しています。また、ワイヤーで傘と海流を結んでいます。タンクが流れない様にするために、破を沈めています。タンクは船で回収します。

台風などの強風が吹いた場合は、バルーン内のペリウムを抜き、海面にクラゲの様に浮かべます。その際ワイヤーはつなげたままになります。

これらの装置は、どこにでも移動することができます。

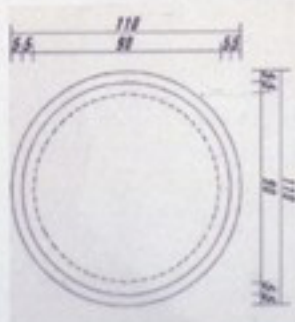
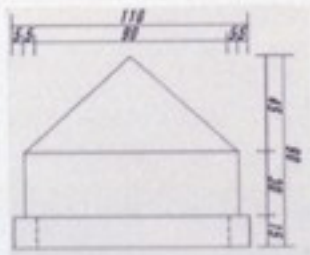


単位/m

これは雨水を回収するための装置です。右図の様に雨水を傘の内面で受け取り、海面に浮かぶタンクに回収されます。



これは、傘と水樽を使い調整を行ったものです。実際に雨水で高留水を回収できました。

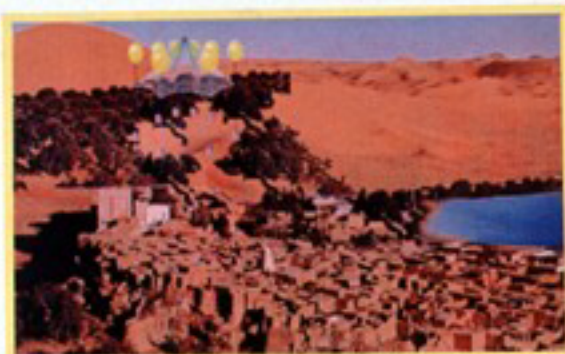


単位/m

これは高留水を回収するための装置です。右図の様に海面から高留した水が内面に付き、ワイヤーをつたってタンクに回収されます。



覆氷盆に戻る



↑ このようにまわりは乾水を増やし、砂漠化を防止して緑化を進めています。タンクから集水のよこにまでつなげた地下のポンプは、大きなキヤナスを誇り上げました。今地球で大問題になっている地球温暖化と砂漠の乾水を担いでくれるのです。

4



海で回収した水は、世界各地に運ばれます。この町にも水が運ばれ、人々は飲料水として、また災害時のための水としてこのタンクに水を貯水しています。このタンクは簡単な仕組みをつくるだけで、あらゆる所に設置が可能でどの屋上や山の中などでも容易です。

まとめ

この装置を使って溜め水は、世界各地で飲料水、給水、工場用水などに利用されます。また、砂漠の緑化を進めると同時に、地球温暖化によるCO2の増加も担いでくれます。最後に、我々人間にとって必要不可欠な水ですが、砂漠にすむ人達は、簡単に水を争い入れることが出来ず、日々苦しんでいることは事実です。この問題を解決するためにも、みなさんに少しでも活用してほしいと思います。